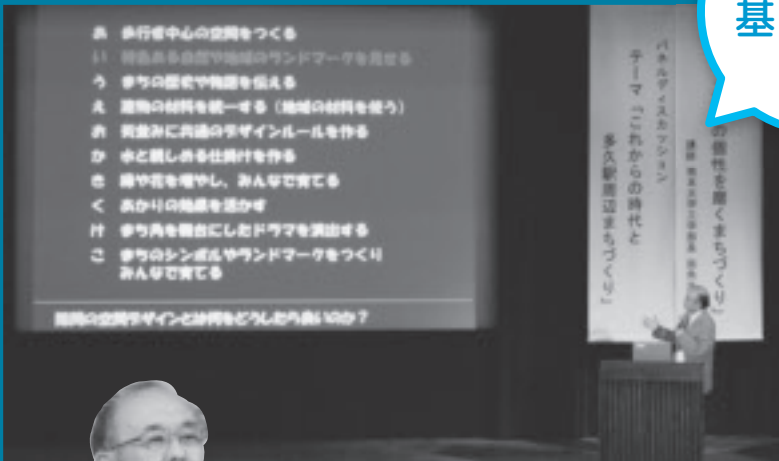


基調講演



演題「地域の個性を磨くまちづくり」 熊本大学 両角光男 工学部長 まち全体を魅力的な場所に！



まちづくりは、将来を考えることなので、いろんな可能性を語ることができます。

賑わいのあるまちづくりで重要なことは、第一に住む人を増やすこと。そして働く人、訪れる人、通る人を増やすことでしょう。さてどうやってと言うのが課題。まず考えることは、地元の市民が行きたくなるようなまちを作ることで、成功すれば周辺からも来てもらえるという考え方が大事です。市民にとって魅力的なサービスを提供する、駅周辺に滞在すること自体が楽しみな場所を作ること、市内各地から駅周辺に便利に移動することができるようにすることも大事でしょう。

魅力的な施設・建物をつくることも大事ですが、まち全体が魅力的な場所であることも大事。施設デザインと隙間の空間デザインがカギを握っています。例えばお店や喫茶店など建物と建物の間を隙間空間と呼び、そういう場所で過ごす時間も意外と長く、そこで過ごすこと自体がそのまちの魅力を作り、そこでの体験や印象がまちの魅力や印象につながっていくと考えます。隙間を色々演出することで、滞在することを楽しめるまちができます。そのためにいろんな考え方があることを紹介しましたので、今後の討論のきっかけにつながればと思います。

(講演の一部を抜粋)

『地域の個性を磨くまちづくり』と題し、「まちづくりは将来を考えることで、可能性を語ることができる」と始まった熊本大学の両角光男工学部長の基調講演は、多くの事例を映像で紹介しながら、多久駅周辺のまちづくりにイメージを膨らませる情報を提供しました。

事業活動報告では、中心市街地活性化のため多久市が取り組んできた多久駅周辺まちなか再生総合プロジェクトス事業の渡會清治プロジェクト

サーが『多久駅周辺のまちづくりに向けた活動』として、昨年8月から商工会を中心としたまちづくり協議会や市民各層で協議を重ねた内容を報告。資料をもとに、要点となる①まちづくり10年構想②街並みの景観形成③まちの空間イメージ構想④中核施設構想について説明し、「まだまだ始まったばかりなので、今年度一年同じような試みをやって、中身を積み上げます」と話し、それぞれに今後の課題や進め方を示しました。

その後、パネルディスカッションに移り、渡會プロジェクトサーをコーディネーターに、6人がパネラーとして『これからの時代と多久駅周辺まちづくり』をテーマに議論。会場から「多久全体でまちづくりを考え、大きな目標を持って動かないと住みたい、行きたいまちにならない」などの意見や要望も出され、今後のまちづくりに期待を集めました。



◀事業活動報告を熱心に聴く参加者

多久駅周辺土地区画整理事業の完成となる平成26年度までの期間は、まちに命を吹き込む重要な過渡期。市では今年度、中心市街地活性化基本構想の策定、まちを動かすエンジンとも言える人材・組織づくりを重点的に行う予定で、今後も産・官・学・民が一体となって理想に一步でも近づけるような協働のまちづくりを進めます。